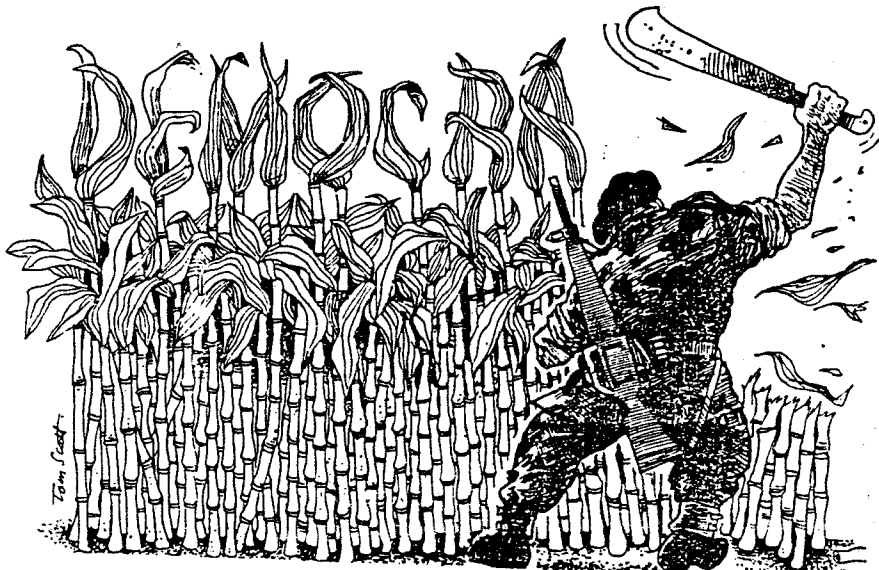


# 反トマホーク通信

No. 23  
87. 9. 20  
定価 100円

東京都渋谷区渋谷 2-5-9 パル青山 502 トマ喰虫社 ☎03(498)6095  
044(63)5101

## FIJI FOR ALL FIJIAN WORKING PEOPLE!



「『全てのフィジーの働く人々のためのフィジーを!』」

ランブカ大佐のクーデターを支持する人々は、クーデターは「先住フィジー人」の権利をうたいあげるものだと言っている。しかし、多くの先住フィジー人がクーデターに反対している。実際にはフィジーの酋長制度はこれまでもそして今日も、外国による広範なフィジーへの侵略を支えているのだ。」「オークランド民主主義同盟」のチランシより。

今、南太平洋の各地で、非核・非同盟・自立を求める人々が直面しているのは核大国を背にしたむきだしの暴力だ。私たちの前に広がる太平洋は、その名とは裏腹に核と暴力の支配する海へと姿を変えてしまったかのようにはすら見える。しかし、太平洋は人々を繋ぐ海でもある。人々のたたかいは、互いに支え、励まし合いながらゆつくりと、しかし確かに連携を深めてきた。そっだ「人間の鎖は太平洋より大きい」...

アジア・太平洋最大の軍事大国・日本でこの人間の鎖につらなる道を踏み固めるのが私たちの反核運動でもあることを忘れるまい。核艦船の入港を止める。この単純で、しかし決して容易ではない目標に挑戦し続ける時、私たちの前にその道はある。(た)

トマホークの配備を許すな! 全国運動

●維持会員(月間会費)

団体 1日 2000円  
個人 1日 1000円

●参加会員(月間会費)

団体 1日 1000円  
個人 1日 500円

●通信会員

年間 2000円

あなたも仲間!

# INF交渉の真相

梅林宏道

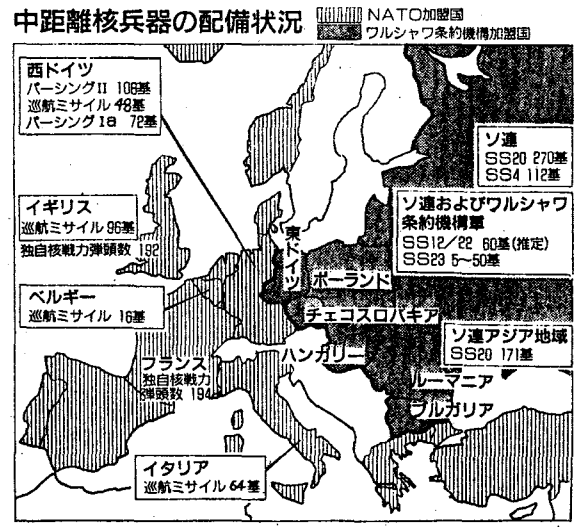
## 海洋発射巡航ミサイル(「トマホーク」)を含めたトリプル・ゼロを!

中距離核戦力(INF)に関する米ソ交渉が大詰めを迎えている。軍縮交渉が米ソ両国のトータルな政治の反映であることを考えると、今後どのような展開があるか最後まで予断は許されない。しかし、ベレストロイカの成果として、そして経済的困難の打開策として軍縮を必要としているゴルバチョフ政権と、大統領選挙の年をむかえて最後の成果を誇示しなければならぬレーガン政権の双方にとって機は熟していると言ってよいだろう。

### 経過の要約

INF軍縮交渉は、ヨーロッパの反核運動の引金になったいわゆる一九七九年のNATO二重決定:NATOがアメリカの中距離核ミサイルのヨーロッパ配備を進める一方でINF軍縮交渉を進めるという決定:以来のテ

なつたのは、この交渉をSRIに絡ませないとしたソ連の大巾な譲歩ないし方針変更である(八七年二月二八日)。その譲歩はさらにソ連側からのダブル・ゼロ・オブションの提案という譲歩につながった(四月一四日)。つまり、射程千キロメートル以上の長射程中距離核(LRINF)。アメリカ側ではパーシングII、地上発射巡航ミサイル、ソ連側ではSS4、SS20がこれに相当)のみならず、ソ連が優位に立つ射程五百キロから千キロの短射程中距離核(SRINF)。アメリカ側では西独がミサイルを保有しアメリカが核弾頭を管理しているパーシングIA、ソ連側ではSS23、SS12/22がこれに相当)をもINF交渉の対象とし、この双方のヨーロッパ配備をゼロにするという提案であった。ダブル・ゼロの条件として①日本、韓国、フィリピンのアメリカの核に対抗してソ連アジア部に



それぞれ百発のLRINFをヨーロッパ外に残す、②西独のパーシングIAを含めたゼロにする、などが呈示された。NATO諸国が西独のパーシングIAは米ソ交渉とは別問題としながらも基本的にダブル・ゼロを受け入れたのを受けて、レーガン大統領は、残存百発の査察問題の困難を除去するために全地球的規模ですべてのINFをなくす、いわゆる「グローバル・ダブル・ゼロ」を逆提案した(六月一五日)。これに対してゴルバチョフ書記長はアジア政策の大転換ともいうべきアジア部中距離核の放棄「グローバル・ダブル・ゼ

ロの受入れに踏切った(七月二三日)。こうなると残る大きな障害は形式上は西独の主権に属すると言われるパーシングIA七十二基の廃棄のみとなったが、コール首相がそのモサイル部分の廃棄(八月二六日)、アメリカがその核弾頭を撤去(九月二日)、ソ連は撤去ではなく廃棄を主張)を発表することにより、これとても大枠一致の方向を見出だすことになった。

この原稿を書いている時点で、ワシントンでの米ソ外相会談が進行中であるが、INF交渉妥結の気運が伝えられている。

### 「核の海」へゴー

INF交渉が妥結し、中距離核戦力のグローバル・ダブル・ゼロに向かうことに対して歓迎かどうか、と問われれば歓迎と言わなければならない。とりわけ、今回の交渉の背景にヨーロッパ民衆の強い反核世論とブロックを越えようとする反核運動が作用して来たことを考えればなおさらである。

しかし、進行している事態の全体像を冷静に描いて見ることを怠るならば、大変な過ちをおかすことになる。このことに関連して朝日新聞は矛盾した社説を書いている。レーガン大統領のグローバル提案を受けた六月一六

日の社説では、「一つの軍縮交渉が実は別のより高性能の兵器を取得するための口実であったと言ふような苦い経験が繰り返されてはならない。本場の緊張緩和と平和に向かう軍縮交渉でなければならぬ」との内容を書いた。ところが、アジアINFを放棄したゴルバチョフ書記長のグローバル・ゼロ受け入れの声明直後の七月二四日の社説では、ゴルバチョフ書記長が太平洋の核軍拡に触れたのをとらえて「アジアINF全廃の条件として海洋戦略を持ち出すな」と主張した。INFと切り離して太平洋の軍拡を具体的に話し合うのはいいことだ、という但し書きはあるにしろ、INF交渉妥結と直結する海の軍拡にとりあえずフタをせよという主張である。INFが「より高性能の兵器を取得するための口実に過ぎなくなる」可能性をこれでは野放しにしてしまう。

空母艦載機の核や韓国の群山や日本の三沢に配備されているF16の核が実質的に中距離核であるという事実を目をつぶるとしても、海洋発射核巡航ミサイル・トマホークは射程二千五百キロで陸上目標をたたくまじれもない長射程INFである。今回の廃棄対象となつて地上発射巡航ミサイルと全く同じミサイルであり、ただ異なるのは発射台が地上ではなく移動可能な軍艦に据えられていると

いう点である。

ところで、前ページの図に示されているように、今回のINF交渉の対象となつていミサイルは西独のパーシングIAを含めてアメリカ側の長射程三百三十二発、短射程七十二発、ソ連側の長射程五百五十三発、短射程百十発である。ところが、アメリカは既に百二十五発の核トマホークを配備し、一九九二会計年度までにはその数は七百五十八発になろうとしている。つまり今回廃棄されるかもしれないアメリカ側の三百四十発の二倍近くのINFが既に公然と海洋配備される計画にある。これに対抗してソ連もまた、SNX21、SNX24という陸上目標を攻撃する長射程海洋発射巡航ミサイルをまさに一九八六年から配備を開始したと伝えられる。その数は未知数であるが優にアメリカの数に達するであろう。

何のことはない、核戦争はより多くの数の、精密な兵器で海をプラットフォームにして行なう体制に移行しただけである。その企てがフィジーのクーデターを生み、ベラウの非核憲法を潰し、日本の軍拡を生み出している。

私たちはダブル・ゼロではなく海洋発射巡航ミサイルを含めたトリプル・ゼロを強く主張するとともに、核艦船入港拒否の大衆運動を強めよう。

## 核兵器事故

# 自治体は 今すぐ ふたつのことを!

対応策の研究  
と  
核艦船入港拒否



八月下旬、米ノーチラス研究所が入手したアメリカの公文書（八四年五月八日付け「米太平洋軍指部文書」）によって「核兵器事故対応策を協議、調整する対象国に日本も含まれている」ことが明らかになったのに続いて、「全国運動」ではこの「秘密協議」がすでに日米間で行われている可能性が極めて強いことを示すもう一つの文書を入手、記者会見発表した（九月九日）。（この記者会見の内容は十日の東京近辺の朝刊各紙ではかなり大きく報じられたが、関西以西ではなぜか全く記事にならなかった）。

問題の文書は米国防総省指令文書「核兵器事故広報に関する手引き」（八二年一月七日付け）（ここでは「事故発生の可能性のある場所では、現場司令官は現地の米軍司令部、米国外大使、三者の調整によって事故対応の緊急行動チーム（CEAT）にコミュニティー・エマージェンシー・アクション・チーム）を形成する」とされ、住民に被害が及ぶような事故の時には「現地米大使を通じて現地政府当局に通報しなければならぬ」とさらに「この手続は事前に確立する」と明記されている。「日本も協議対象」とした「ノーチラス文書」とかさねあわせれば、日本ですでに協議がなされ、「手続が確立されている」とことは疑いないと言わなければならない。

これは、とりわけ基地をかかえる自治体と住民にとって極めて重大な内容である。「ノーチラス文書」が公表された時点で、全国運動と神奈川の市民グループ「コア・ら」と「生活クラブ生協東部ブロック・反核と平和を考える会」の有志は神奈川県知事に対する申入れを行った。（八月二十六日）

申し入れ書は、二つの問題点を指摘している。一つは核が持ち込まれているのではないかとこの事実をめぐる問題。もう一つは持ち込まれているかもしれないという疑念状態において、事故対策をどう考えるかという問題である。そして、いずれの観点からいっても県の対応は危機感がうすく非常に甘い、として次の二点を求めている。

「一、核持ち込み疑惑下における核事故対策について、専門的研究班を早急に発足させ、事故の規模、可能性、行政としての対応を研究、公表すること。

二、核の持ち込みについて、独自の判断基準を持ち、それによって濃厚な疑念の入港については拒否する意志表示をすること。判断基準について、私たち県民に明らかにすること。」

事故は今日にでも起るうるし、その被害は甚大なものになるだろう。人々へのアピールと自治体への働きかけをさらに強めよう。

## 四十二年目の「原点」から——八月ヒロシマ・ナガサキの報告

### 八七年広島・平和へのつどい

木原 省治（原発はごめんだヒロシマ市民の会）

“八七年広島・平和へのつどい”は、八月六日午後一時三十分から広島市のみゆき会館で外国の代表や全国の仲間を含め約四百人が集まって開催された。

「よし、この集会の広島での責任者を引き受けよう」とパツと決断したのは、三つぐらの理由があったと思う。①には、決議や基調は無しでやろう。②には、「トーク・広島の原点から」とサブタイトルにあるように、率直な異議、疑問が出せる場にしよう。③には、誰もが参加できるつどいにして、新たな草の根平和運動のうねりを作りたい、と欲張った考えをもったからだ。

ザ・リボンの高橋久美子さんと僕の二人で司会をし、つどいの代表者で元東京家裁判事の森田宗一さんの開会あいさつ、反トマホー

「トーク・広島」の原点から

ク全国運動の梅林宏道さんが、このつどい開催にいたった経過報告をし、その後十個のテーマを一人五分間ずつで、話題の提供をすることになった。「広島を伝えること」というテーマで僕が、次に、日本山妙法寺の提唱により東京から広島まで平和行進を歩きつづけた行進団長と、アメリカから参加のフェリーシア・トニーさんが「平和行進を歩き通して」と題し、平和運動のやり方をテーマに、北島真理さんが「愛をリボンにこめて」。折ることと平和、折れば平和になるのかという意味で「折りと行動」と題して広島府中教会の宗藤牧師が、反トマ運動からはトマホークの配備を許すな！呉市民の会の湯浅一郎さんが、昨年八月に、トマホーク積載のメルルが呉港に入港したことで「広島が核基地になった」

と題して話題の提供をした。

十個の話題提供の後には、それぞれのテーマに分かれての分散討論ということになった。狭い会場内に、椅子をガチャガチャと動かして、それぞれの輪が出来た。ぐるっと見たらアメリカ・インディアンのスロー・タートルさんが話をした「母なる大地を守る眼から」と、インド人を中心にした「非暴力運動」の輪と、在日韓国人の朴隆宏（パクユンガン）さんが話をした「私たちと日本の『平和』」の輪が大きく膨らんでいたようだ。

あつという間に討論時間の持ち時間一時間が過ぎてしまったようだった。そして再び全体討論になり、あえてまだ言いたいこと、ということ、ベラウの問題、三宅島のこと、天皇の訪沖反対について、反原発の運動を提起がされ、閉会となった。

私たちは、「よびかけ」の中でこのつどいについて「一人一人が目覚め実践を始めることを願ひ、その想いを持つ人々が集まれる場を……」というふうに訴えた。そのために会場も、真ん中に司会者を置きそのまわりを囲

むようにしたし、クッキーもコーヒーも準備し、そして輪になっての討論で最低一回は発言できるようにも考えた。そして何よりも話題の提供も幅広く考えたつもりだが、よびかけの趣旨とおりであっただろうか。

会場が狭いという問題もあったが、よせられた感想は、よかったというものと、消化不良の二つに分かれていたようだ。グターとした疲れの中に、また今年多くの人に出会えたという、喜びは残っている。来年は、長崎の人も含め、広島・長崎で“つどい”を成功させ定着させたいと夢はもっている。

## 八七反戦反核広島集会

吉田 正裕（八七反戦反核集会実行委）

新しい形態になって三年目の反戦反核広島集会は、八月五、六日の二日にわたって、延べ七百名もの全国各地から集まった人々によって開催された。

過去二回は、一日集会として開かれていたが、ヒロシマの持つ内容の広がり、一日での討論では、とても十分に議論をつくせないということで、本年度からは二日にわたっての集会として準備された。

第一日目にはまず、集会実行委代表の一人である前電産中国地本副委員長柳谷達氏があいさつに立ち、労働運動の右翼的再編が進み、原水禁運動が危機に直面している今日、ヒロシマの原点にこだわって、反戦・反核の運動を具体的に闘う広島集会の重要性を訴えた。

続いて、集会実行委のもう一人の代表である広島県原水禁常任理事の松江澄氏から集会基調の提案がなされた。基調では、過去二年



影法師 (Shadows of Hiroshima) のリーフレットから

間、反原発、反トマホークという具体的な課題をヒロシマの原点にたつて、日常的な運動として担ってきたが、本年秋に予定されている、一連の天皇・皇族の沖縄訪問に見られる動きに対して、反天皇の運動を通じて沖縄の闘いとつながりを深めていくことが訴えられた。

こうした基調に対して、続いて行われた討論の中では、当然のごとく「反天皇を挙げた運動は大衆性を失い、つぶれてゆく」という意見なども出たが、これまでにない大衆性を持った反天皇の運動を進めていくことの必要性が認識された。

その後、反トマ運動、反原発運動、反天皇制運動の三つの課題別集会に入り、個別課題

がかかえた問題討論を行った。

反トマ運動の集会では、通信基地施設の拡充や三宅島の米軍訓練施設建設など、「トマホーク」だけでなく全国各地で進む様々な軍事施設の強化に対する運動を進めることの重要性が話し合われた。反原発の会場では、今、運動の側から進められようとしている「自主

防災運動」のあり方が最も中心的議題となった。反天皇の会場では当然のこととして今秋の天皇・皇族の沖縄訪問の今日的意味とそれに対する運動の取り組みが議論された。

二日目は、各分散会場での討論が報告された後、沖縄大学学長新崎盛暉氏の記念講演が行われた。静かな口調ながら説得力のある氏の講演に、参加者は得るものが大きかったと思われる。

新崎氏は沖縄、ヒロシマが持つ幻想性について語り、しかしそこには、幻想を生み出す根拠がある、こうした根拠に基づいた地道な

## ピースウィーク八七 in NAGASAKI

舟越 耿一

(ピースバス長崎)

この夏、長崎では「ピースウィーク八七 in NAGASAKI」という九日間ぶつ

通しの企画をやりました。このピースウィークは、日頃それぞれのテーマで活動してきた十一の草の根団体がゆるやかに結束して、それぞれが手づくりのイベントをやるうというもので、全体をまとめる基調もわずか百六字の短い文章でした。しかし各団体から自主的に実行委員会に参加した面々の結束はきわめ

て熱いものでした。まずその中身を紹介しましょう。

- 八・一 沖縄読谷村村長さん講演会
- 八・二 子どもたちが八枚のベニア板に絵を描き、紙芝居を見、歌う一日
- 八・四 小沢遼子講演会
- 八・五 「人間をかせせ」等七本の映画の昼夜上映
- 八・六 被爆者の体験を聞く会



八・七 国家秘密法シンポジウム(稲葉三

千男、加納実紀代、水上正博)

同 ビースポート(納涼船をかりきつ

て船上から三菱の兵器工場見学)

八・八 日独平和フォーラム(小田実氏と  
西ドイツから六名)

八・九 午前中は爆心地公園で市民集会を  
開き市民平和宣言を採択、ハプニ  
ング的に六百人の「人間の輪」が  
できた。午後はビースバスで三菱  
の兵器工場を見て回るグループと  
平和コンサートに分かれた。

今さらながらこれだけの企画をよくやり抜  
いたと思いますが、いずれの企画も予想以上  
に市民の参加があり、そのことが二十人足ら  
ずの実行委員を元気づけました。詳細は目下  
作成中の小冊子にゆずりますが、準備期間二  
ヶ月足らず、ポスター、チラシ、チケットは  
全体用と個別企画用の両方をつくり、二千万  
の通し券が二五〇枚売れ、のべ参加者数はビ  
ースポートを除いて二千人、当初約二十万の  
赤字は覚悟していたところ、各会場でカンパ  
が予想以上に集まり収支はトントン……期間  
中「かわら版」と称するミニコミ新聞が出さ  
れ七号まで。パラノとスキゾからなる実行委  
員はビースウィークが終っても皆なお健在で  
ボルテージは上がりっぱなし。来年に向けて

充電開始……である。

さて、このビースウィークの「成功」の秘  
密はどこにあるでしょうか。私は一口で言っ  
て「市民による手づくりの運動」という点が  
多くの共感を得たと考えています。従来の八  
六、八・九の運動にはその「手づくり」の感  
触が欠けていて、企画者と参加者の間には越  
えがたい溝があったように思います。参加者  
の思い、あるいは主体性や自発性が生かされ  
る余地がなかったとも言えるかもしれません。  
八・九前後に自分の反核の意思を表現したい  
という市民は数多く存在するのに、その表現  
の場がなかったのです。

私は反核平和についての語り口は多様であ  
ると思っています。既成の大きな平和運動は  
その語り口にセオリーを持ちこんで市民との  
間に壁をつくり、その結果今、状況感覚に支  
えられた平和の語り口を見失っていると思ひ  
ます。ビースウィークに結集した面々はそれ  
ぞれが独自の感覚の持主です。多様な感覚が  
多様な仕方方で発露したのがビースウィークで  
した。またその背景にはビースバス長崎の運  
動の存在があります。この運動は抽象的な平  
和論議ではなくて三菱を相手にしたシビアな  
闘いです。しかしその運動形態は穏やかなも  
のです。この辺にもビースウィーク成功の別  
の秘密があるかもしれません。



フィリピン

上院に核兵器禁止法案

「マニラ・クロニクル」87・8・21  
ウィルソン・ベイロン編集委員

国内における核兵器の製造、貯蔵、配備お  
よび使用を禁止する二つの法案が、昨日上院  
に提出された。

二つの法案はほとんど同時に別々に提出さ  
れた。一つはウィグベルト・タニヤダほか九  
人の上院議員による法案第六七号。もう一つ  
は、アキリノ・ピメンテル二世ほか十一人の

引続き太平洋諸国の切迫した状況をお伝えする。  
ペラウでは八月四日の国民投票で、核兵器などの使用、実験、貯蔵、廃棄が過半数以上の同意で可  
能(従来は四分の三以上)とする憲法改悪が成立したことを受けて、八月十一日には六度目の「自  
由連合協定」承認の国民投票が行われた。その結果、同協定は成立し、米国の核艦船受入れと基地供  
与への道は大きく開かれた。非核派の人々は憲法改悪の国民投票はそれ自体憲法違反だとして提議、  
九月中旬に裁判所の結論が出るに至っている。(下段のコラム参照)

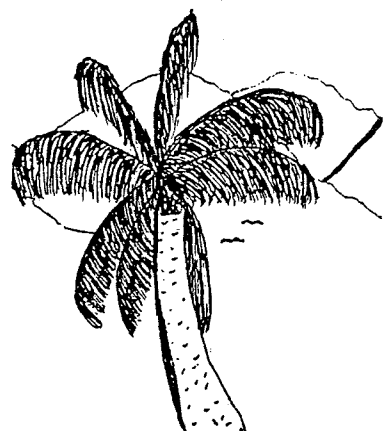
二つの国民投票に先立って、サリ政権は反対派(憲法擁護派)に対する露骨な攻撃と住民への威  
嚇に終止した。例えば米軍からの援助の必要性を強調するたに国家公務員の八割を一時帰休、電気や  
水道の供給まで削減した。反対運動の活動家の家には爆弾が投げ込まれ、公用車による引き逃げ未遂  
事件まで発生している。いったんは住民投票の開票速結判決を出した裁判長が脅迫によって判決を取  
消すという事態も生じている。

フィジーでも依然としてクーデター後の軍政が継続している。  
ニュージランド総選挙でのロンギ政権の勝利(八月十五日)は一筋の光であるが、今太平洋に急  
激に広がるようにしているのは核の「暗黒」である。

八月二十日に、フィリピンでは「非核法案」が上院に提案された。憲法の非核条項を実質化する画  
期的な法案である。現地紙「マニラ・クロニクル」に掲載された詳細な解説記事を以下に紹介する。  
ホナサン大佐のクーデター未遂事件はこの法案の提出直後に起こった。「核持ち込み禁止」と「基  
地撤去」への軍部の危機感がクーデターの最大の動機である、とフィリピンの友人は電話の向こうで  
語った。「状況は悪化の一途をたどっている。アキノ大統領は事態を收拾する何の力もない」「我々  
もいつ地下に潜らなければならぬか分からない」とも、その声には価値なしの切迫感があつた。

上院議員による法案第六八号である。第二の  
法案の共同提案者のうち十人は第一の法案に  
も名を連ねている。

法案起草者たちの説明によれば、これらは  
我が国が非核兵器政策を追求することを義務  
付けた憲法の規定を実体化することを目的に  
提案された。



ペラウ非核憲法を  
急襲した暴力

ペラウ

「技術と人間」八七年九月号 “CRITICAL NEWS 環太平洋” より

ペラウ情勢は極めて厳しい。先月号のこ  
の欄で、非核憲法を改悪し、アメリカの基  
地建設と核艦船の寄港を認める自由連合協  
定を通りやすくしようとする国民投票が八  
月四日に強行されようとしているという急  
報を掲げたが、この国民投票はその通り強  
行され憲法は改悪された。改悪の中味は正  
確には伝わっていない。少くとも、核艦船  
寄港を前提とする自由連合協定の承認が、  
これまでのように国民投票の四分の三の賛  
成を必要とするという内容から、単純過半  
数の賛成でよいという内容に改悪されたこ  
とは確かである。一部には、核兵器、核物  
質にかかわる禁止条項を除去したという情  
報もある。現行の憲法の中には核禁止と四  
分の三条項を記述している部分が二箇所あ



法案第六七号は次のように規定している。「単独あるいは複数で、核装置あるいは核兵器を、部品あるいは完成品の形で、いかなる形態、数量においても国内あるいは領海内に一時的通過、陸揚げのいずれかの方法で輸入あるいは持ち込み、あるいは貯蔵、所有、保管、所持し、またこれら核装置、核兵器あるいはそれらの部品、構成要素を結合あるいは組立てることは何人といえども違法である」。

一方、法案六八号の規定では「フィリピンの領土、領海、領空のいかなる場所においても、あるいはそれを經由しても、いかなる種類、形態の核兵器をも製造、所有、所持、貯蔵、販売、貸与、配備あるいは他のかたちで使用し、核推進あるいはいかなる種類、形態の核兵器を搭載した船舶、艦船、あるいは潜水艦および飛行機あるいは航空機をも陸揚げ、着岸、入渠、係留、飛行、推進、操縦すること何人といえども違法である」としている。法案第六八号はさらにこの法律が友好国の軍隊の代理人、官吏、要員によって侵害された場合にはそれを敵対行為とみなすとしている。

このような侵害行為があった場合には大統領の判断によって当該国との外交関係を断絶することも可能である。行政最高官（大統領）がこのような制裁に訴えることが出来るのは

国際法およびフィリピン国内法の許すところである。この法律に違反する全ての法律、条約、協定、協約、政令は無効とされる。

これら二つの法案は今日、上院の第一読会に提出される。さらにこれらは「防衛・安全保障」、「外交」、「科学および技術」の各委員会の全てあるいはいくつかでの審議に付されるものと予想される。

二法案は、おそらく後々一本化されるであろう。

この法律が成立すれば、「フィリピンは国益と合致して、その領土内における非核兵器政策を採用し追求する」とした憲法第二条第八項の範囲と定義がはっきりと明文化されることになる。

ビメンテル議員はこの法案が「外交的に重大な波及力」を持つものであると認めている。上院外交委員長のレティシア・シャハニ議員もまた法案第六八号が国際的な波及力を持つと考えている。国内の米軍基地撤去の最も強力な提唱者の一人であるタニヤダ議員は法案と米軍基地はそれぞれ別の問題であると強調した。同議員は法案は憲法の条項を明確化することのみを目的とするものであると説明した。

ビメンテル議員は、法案が米軍基地に影響

これにアガビト・アキノ、ジョセフ・エストラーダそしてタニヤダ各上院議員が加わって法案第六八号の起草者となっている。

タニヤダ議員は説明用メモの中で、我が国の非核兵器政策は「核兵器が人類に対する脅威であり、核戦争の結果が悲惨で恐ろしいものであること」を認めている、述べた。

同議員はさらに政府が平和、平等、自由、全ての諸国との協力と親善の政策を守り抜くことは「世界中とりわけ小国の間でわきおこっている、大国間の緊張と核軍拡競争の危機を排除することを求める声と合致するものである」と語った。

(訳 田巻一彦)

## 戦艦ミズーリ、スービックに

(現地各紙からの要約・編集部)

八月十六日、米戦艦ミズーリがマニラから約八十キロ西のスービック米海軍基地に入港した。ペルシヤ湾のクウェート・タンカーの「護衛」に向かう途上の寄港である。

非核フィリピン連合(NFPC)はこの核トマホーク搭載艦の入港に対して抗議するとともに、政府が憲法の非核条項に則って入港を拒否するよう訴えた。同連合は「入港を許せば我々は、我々の関与しない紛争にひきずりこまれる事になる」と批判している。

り(国際条約にかかわる第二条第三項と一般条項第十三条第六項)、それぞれの改悪のされ方が問題となるだろう。

いずれにしても、後に述べる法廷闘争が続いているが非核憲法は改悪された。そして過半数による自由連合協定承認か否かの投票が八月二十一日に行なわれた。先月号のこの欄で六月三十日に五度目の投票が行なわれたことを報じたが、二カ月足らずのうちに憲法を変えて六度目の投票をするという想像を絶する「急襲」がなされたのである。そして、自由連合協定は六七パーセント前後の賛成を得て承認された。これによって、ペラウは一〇億ドルの経済援助と引きかえに五〇年間アメリカの巨大軍事基地となる地点に立たされたことになる。

しかし、まだ非核憲法を守り自由連合協定に反対する闘いは終わっていない。直接的には、憲法改悪のための八月四日の国民投票が違憲であるという裁判が最高裁で進行中である。憲法に記されている改正条項は、上下両院で四分の三以上の賛成を得て改正案が提案されたとしても、そのための国民投票は次期総選挙(来年十一月)を待たなければならぬことを示している。しかし、サリイ政権は、自由連合協定と現行憲法が矛盾したときに適用される「移行のための改憲条項」をもち出して国民投票を強行した。これは法解釈としては無理というものである。さらに重要なことは、一連の「急襲」が自由連合協定反対派に生命の危険を感じさせる計画的暴力をとまないうながら行なわれたことである。

六月三十日の国民投票で自由連合協定が否決されるや、サリイ大統領は、給料支払い不能を理由に突如として全体の三分の二におよぶ九〇〇人の政府職員を一時解雇した。そして解雇労働者三〇〇人をたきつけて議會を包囲するデモを組織し、自由連合協定を受け入れて経済危機を脱するように叫ばせた。電気、水道の使用制限も加えられて社会不安の雰囲気醸成された。下院の広報官であり自由連合協定反対派であるベナ・サクマ氏の家が何物かに放火された。やはり反対派の中心人物サントス・オリコン下院議長の家や生命が脅迫にさらされた。このような雰囲気の中で憲法改悪案が両院を通過したのである。アメリカ下院小委員会でのオリコン氏の証言によれば「頭に銃を突きつけられた状態で生命を守るためにのみ賛成投票をした」のである。

反核パシフィック・センター(〇三・八一五・一六四八)ではペラウへの緊急支援カンパを訴えている。(梅林宏道、「トマ喰い虫」研究ネットワーク)

ベラウは核軍拡キャンペーン

急報！

ローマン・ベドール氏の父親暗殺される

ベラウからの情報によれば代表的な反核住民団体「キタレン」のリーダーとして知られる弁護士・ローマン・ベドール氏の父親が何者かによって暗殺された。

を与えるかとの記者からの質問に答えて、米軍はクラーク空軍基地およびスービック海軍基地に核兵器を保有している事を否定しているのだから、法案は米軍基地に何の影響も与えないと語った。

同議員は「私は米軍基地に核兵器があるか否かを言う立場にはない。それを説明するのは基地司令官としての国軍参謀長官の責任である」と語った。

彼はさらに法案の上院通過の見通しは非常に明るい、と付け加えた。しかし、定数二百二十五人の下院における法案の前途を予測するのは極めて困難である。

ビメンテル議員は法案の提出が米戦艦ミズーリのスービック海軍基地入港の二日後であったのは単なる偶然にすぎないと語った。

「非核フィリピン連合」は同艦は核兵器を装備しているとして同艦の入港を非難した。同反核団体はアキノ大統領に対して非核兵器政策を勵行するよう要請した。

法案第六七号の共同起草者はヘーソン・アルバレス、テオフィスト・ギンゴナ二世、エルネスト・マセダ、オランダ・メルカード、アキノ・ビメンテル二世、サンタニア・ラスル、アルベルト・ロムロ、ジョビト・サロンガ、およびビクトル・シガ各上院議員である。

# 天皇訪沖反対の声を

## 意見広告に！

沖縄戦では十五万人…実に島民の四分の一が犠牲になった。人々は天皇制日本国家を守るために戦場にかりだされ、戦火に追われ、あるいは「スパイ」のらく印を押されて日本軍によって虐殺された。戦争が終わっても基地の島沖縄に平和は来なかった。

人々は立上がっている。六月二十一日、カデナ基地は二万五千人の人間の鎖に包囲された。平和と自立を求める人々の思いが核戦争の機械をとりかこんだ。

その沖縄に天皇が行こうとしている。いまだ終わらぬ「戦後」に強引に終止符を打ち、新しい「戦前」を用意するために、再び天皇が人々の前に登場しようとしている。

在日沖縄青年を主体とする「沖縄研究会」の呼掛けでこの春発足した「沖縄人運動」では「天皇訪沖」に反対する意見広告を現地沖縄とアジアの新聞上に掲載する運動を進めている。参加申込みは下記まで。

いぬまは9月末日まで

●参加費 一口 一〇〇〇円

(紙面での氏名公表の可否を明記して下さい)

●申し込み先

天皇・日本軍の海邦国体参加を許さない沖縄人運動

\* 東京都北区十条三一二九一

大林ビル三〇一

☎〇三(九〇五)一五七九

\* 郵便振替 東京一六一六四七六

沖縄人運動・意見広告の係り

ぜひご協力を！

### 会計報告

(8/7 ~ 9/11)

#### 〔収入〕

○前月からの繰り越し	135,625
○会費収入	63,000
内訳	
維持団体	12,000
維持個人	19,000
参加団体	11,000
参加個人	21,000
○カンパ	13,400
○会場カンパ	9,600
○在庫品売り上げ	2,500
○反核ホットライン	21,240
(会費・パンフ売り上げなど)	

<計> 231,365

#### 〔支出〕

●家賃	40,000
●電話代	14,425
●郵送費	67,720
●文具	3,850
●印刷代	40,450
●会場費	8,700
●手数料(郵便振替)	1,040
●次月への繰り越し	55,180

<計> 231,365

月刊反トマホーク通信 No 23

一九八七年九月二〇日発行

\* 発行 トマホークの配備を許すな全国運動

(東京都渋谷区渋谷二一五一九パル

青山五〇二 トマ喰い虫社

☎〇三(四九八)六〇九五

〇四四(六三)五一〇一

\* 編集 反トマホーク通信編集委員会

\* 定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇〇円)

# 反核ホット ライン だより

テレホンサービス聞いていますか。

●03140のこと

井8301ではなくて、03140をブッシュホンしてもNTTの伝言ダイヤル・センタリーにつながることを、あるマニアが教えてくれました。原子力艦入港情報を聞くその後の手順は同じで、連絡番号クロハイレナイ、暗誦番号イレナイです。03140なら東京より六十キロ以遠の地域でテレホンサービスを聞けるのではないかと期待して名古屋と佐世保の仲間に試してもらったのですが、やはりダメでした。ザンネン！

●ホットライン加入者を増やそう

ホットライン加入者は少しずつ増えていきます。しかしもっともつと増える必要があります。これなら自分にもやれる、と考える人があなたの周囲にもきつといるはずで。声をかけてみて下さい。

●教会がキー・ステーションに！

元気になるニュースがあります。横須賀教会から教会としてホットラインのキー・ステーションになると言う申し込みがありました。その話を聞いて本当に勇気がわいてきました。「かねがね教会として横須賀の核の問題に日常的にとり組める活動がないものかと考えていました。ホットラインのパンフを見て、まさにこれだと思いました」。教会の機関で討論しながら組織的な取り組みが始まっているそうです。

## 入港情報

8・18 / 9・19

8・23 原子力潜水艦ボーツマス（ロサンゼルス級）、午後1時、横須賀に入港、午後2時に出港。

8・29 原子力潜水艦ギタロー（スタージョン級）、午後6時、佐世保に入港。

8・29 原子力潜水艦ホノルル（ロサンゼルス級）、午前11時半、横須賀に入港（ただし北緯35度18・6分、東経139度40・3分に沖どめ）、午後0時半に出港。

8・30 ギタロー、午後2時、佐世保を出港。

9・1 ホノルル、正午、横須賀に入港。

9・8 ホノルル、午後4時、横須賀を出港。

※今年の原子力艦入港回数（9月19日現在）

横須賀

17回（うち原潜17回）

佐世保

4回（うち原潜3回）

ホワイトビーチ 7回（うち原潜7回）

計 28回（うち原潜27回）

※今回の入港で特に入港すべきはスタージョン級原潜ギタローの佐世保入港です。この船は最も早くトマホークを装備し、トマホーク・テスト艦として使われていた船です。魚雷発射管にトマホークを装着している写真も存在しています。非核コードでは390点が与えられています。ギタローはトマホーク搭載以前の一九七五年と一九八〇年に横須賀に入港していますが、トマホーク搭載後日本に入港するのは初めてで、極めて重要です。その入港地として再び佐世保が選ばれました。次は横須賀がねらわれるでしょう。

※ロサンゼルス級原潜ホノルルは、一九八五年に就使した最新艦の一つで、日本への入港は初めてです。「海の軍備撤廃を！太平洋運動」の調査によれば、ホノルルはトマホーク装備済みです。

## 原子力艦入港情報 テレホンサービス

ブッシュホンで、まず 井8301、そして連絡番号 968・1071、次に暗誦番号 1071

クロハ イレナイ

イレナイ





●ロンドン戦略研究所、反トマ運動に言及  
国際的によく知られているロンドン国際戦略研究所(IISS)の『戦略概観87』88』が反トマホーク運動がアメリカの政策に影響を与えつつあることを明らかにしている。

『米海軍によるトマホーク核搭載可能巡航ミサイルの配備は、西太平洋での議論を刺激した。』：定期的に米海洋戦略に関する一般の議論の高まりと一致したために、日本、フィリピン、ミクロネシアで、在外米軍基地に対する批判を強める結果になった。

批判の声は次第に騒々しくなりつつあるが、それらはまだ少数派にとどまっている。しかしながら、フィリピン情勢のデリケートさ、米軍がスービック湾とクラーク空軍基地を継続使用することへの民族主義者の反対の強さを考慮すれば、米国の海軍政策(特に核問題についての)は、来る年、これらが意図に反する結果を招かないようにしようとするれば、神経の行き届いた取り扱いが必要となる。

以前にCIAのベテランが日本の反トマ運動に言及して海軍のトマホーク計画を批判した論文が海軍研究所のプロシードディングズに出たのを紹介した(『トマ喰い虫』4号85年

11月)が、今回ののは太平洋情勢と関連して述べられていること、第三者機関による分析であること、に特徴がある。

●イスラエル核技術者バヌヌの獄中書簡  
モルデシャイ・バヌヌ氏の名前を御記憶だろうか。昨年の十月、イギリスの有力日曜紙サンデー・タイムズに「イスラエルはすでに原爆を製造・保有している」と暴露したイスラエルの核技術者である。バヌヌ氏はその後、シン・ベト(国内秘密警察)の手で誘かい、逮捕され、現在アッシュケロン刑務所の独房に隔離されている。

「信原孝子さんを支える会」は、バヌヌ氏の獄中からの訴えを伝える貴重なB4・2ページの資料を作成した。彼は声明で次のような決意を述べている。

「中東における核の危険性について警告を発し、また中東からすべての核兵器をなくすよう呼びかける諸団体、諸個人の活動を、私は支持しているし、支持し続ける決意である」。連絡先：東村山市栄町二一三七一一 巴ハイツ三〇三豊田気付、〇四二三(九一)五五九三。

●ベニヤ板十六枚、三浦半島の立体模型  
十月十七・十八日の「ヨコスカP E A C E フェスティバル」に向かって、巨大な三浦半

島の立体模型の製作が始まっている。このフェスティバルは非核市民宣言運動ヨコスカ、全造船浦賀分会、神奈川県高教組など市民運動と労働組合が一緒になって主催、県評、地区労、神奈川県、横須賀市が後援して三笠公園で行なわれる。

最大の出し物はベニヤ十六枚の大きさの三浦半島、浦賀水道の立体模型。厚さ二センチの発泡スチロールを等高線にそって切り積み重ねる。発泡スチロールはニクロム線に電流を流して溶断する。その煙が作業場にたちこめる。出来上った模型には原潜や空母が浮かび基地が据えられる。そして核事故が起こったとき放射能の雲が街をひと呑みする様を立体的に描く。この試みは今後の運動に大きな財産を残すだろう。連絡先：全造船浦賀分会 〇四六八(四一)〇三四六

●岩国基地にEOD  
岩国基地監視連絡会は、このほど岩国基地にも爆発武器処理隊(EOD)が存在していることを建物の写真とともに公表した。EODは爆弾処理のための専門部隊で核事故に対処する任務も与えられていることが最近明らかになっている。(本号四ページ参照)。連絡先：岩国基地監視連絡会 〇八二七(二四)五三三八。

わかり易い問題提起のパンフ

## 反核運動における二つの鍵―非核自治体と核艦船寄港

読者から説得力があると好評を得ています。ぜひお読み下さい。  
一冊 六〇〇円、十冊以上 二割引(いずれも送料別)